



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：郵便番号016-0895 秋田県能代市末広町9-18 秋林弘道方 電話0185-52-1582

会設立からの歩み

今号には平成20年8月から21年3月までの活動を記録。見出し番号は創刊号からの通し番号です。

110 第2回ニセアカシア萌芽除去作業

8月2日(土)早朝6:00分から7:30まで今年度2回目のニセアカシア萌芽除去作業が行われた。

場所は第1回と同じ日和山地区のウッドチップ歩道の両側と下浜から陸上競技場へ抜ける車道。

1回目の作業が行われた6月20日から43日目だったが、ニセアカシアの成長の早さを見せつけられた感じがした。今回は事前に北羽新報に記事が掲載されたので、会員以外の参加もあった。参加者数は18名。



111 県有林低木除去作業

会発足当初から続いている県有林低木除去作業は、



9月19日(金)9:30から河戸川字下西山地区内(港湾道路からロケットセンターへ向かう道路の入口付近)で作業が行われた。この場所はきのこ狩り

の人たちが自転車で通る道路だが、作業用トラックの往来も多く、イタチハギが道路両側を脇を覆うため危険な場所となっている。参加者数は15名。

112 風の松原に

家庭ごみを不法投棄

これは会の活動ではないが、9月ごろから陸上競技場から下浜に抜ける車道(森林管理署の管理用道路)に、家庭ごみが散乱するようになり、市民からの通報の都度職員が回収しているという。



現場には見かねた市民が立てた注意看板「此の(ゴミ)を捨てた人の顔は私は見ました」も立てられていた。この記事が北羽新報に掲載された10月15日以降はゴミ捨ては見られないが、森林管理署では「捨てている人を見た時は森林管理署(☎54-5511)に連絡してほしい」と北羽新報に報じられていた。

113 第3回ニセアカシア萌芽除去作業

今年のニセアカシア萌芽除去作業も3回目となった。年度当初の予定では3回目は10月10日となっていたが10日は他の行事も多く、二日早めて10月8日(水)9時30分から11時30分まで行われた。

これまで作業の際は陸上競技場に集合することが多かったが、今回は集合場所をいこいの広場に変更したため、参加者に戸惑いが見られた。しかし、最終的には山本地域振興局の職員、米代西部森林管理署長、会員、一般市民合わせて約30名が参加した。

今回の作業場所は斎場脇から市営陸上競技場本部後ろまでの道路沿い約1kmの区間。昨年度切り倒された木の根元から萌芽が繁茂していたが、刈り払い機6台と剪定鋸などを使って除去し、歩道もスッキリとなった。

今年は、秋田県水と緑の森づくり税に基づく森林ボランティア活動支援事業の助成を受けて活動を実施しているが、ニセアカシア萌芽除去作業もその一つ。3回目にして初めて秋田県の幟(のぼり)を立てての作業となった。幟には「豊かな水と緑をみんなで守り育てよう」と書かれていた。



開会行事で挨拶する古川米代西部森林管理署長



114 ニセアカシアの生態と効果的な除去方法について学習

山本地域水と緑のネットワーク会議が主催する



講義とクリーンアップが浅内の県有林保安林で行われ、本会から8名が参加した。

講義内容は「ニセアカシアの生態と効果的な除去方法について」。田村浩喜講師がニセアカシアの栄養補給の方法を紹介し、「種子から生育するよりも水平根から繁殖する方が多い」とニセアカシアの旺盛な生命力、繁殖力を説明。駆除するためには「養分や水分の補給を断ち切るため根を切り、萌芽を伐採することを繰り返す」方法を提案した。

その後参加者全員で一定区域内のニセアカシアを伐採し、根切りの方法を実習した。

115 秋の「風の松原観察会」

今年は「春の風の松原自然観察会」に続いて11月8日9:30から「秋の松原観察会」を実施。いこいの広場に集合し、大森稲荷神社鳥居の途中から左手に入り、ウッドチップ歩道を横切って3号線に抜けるというルートで、普段は歩かない小径を散策した。



ここを毎日歩いている人がいるとみえ、踏み固められた小径が続いていた。一般参加を含め20名参加。

風の松原の秋といえばクロマツに絡み付いたツタの紅葉が有名だが、上右の写真のように白く色付いたコシアブラの葉も見られた。



左の写真はオオウバユリの実。ここから白い種子が桜吹雪のように飛び散る様子が実にきれいだった。

116 会員研修会

11月14日(金)午後1:30から「風の松原の将来について」というテーマで会員研修会を実施した。

会場は中央公民館第5研修室。参加者は17名。

最初に前会長の梅田市美さんが「虹の松原から学ぶこと」という題で、佐賀県唐津市の虹の松原での松原保全・再生の動きについて報告。その後、出席者全員でテーマの「風の松原の将来」について話し合った。



117 風の松原保護協議会が発足

今年1月21日付けの北羽新報に20日「能代市風の松原保護検討協議会」の初会合が市総合体育館で開かれたと報じられていた。この協議会は、風の松原の将来像や整備方針を話し合う機関として専門家や住民代表11人の委員構成。今年度2回、来年度5回程度会合を開き、報告書等の形で協議成果を集約し、各関係機関に要望するという。本会会員梅田市美氏も能代市長から委員に委嘱されている。

118 樹幹注入作業実施

3月3日9:30から本年度最後の事業である樹幹注入作業が大森稲荷神社近くで行われた。

今回は会員、山本地域振興局、米代西部森林管理署、白神森林組合等、30名が参加。使用した薬品の費用は「県水と緑の森づくり税」の補助金で実施。クロマツ5本(うち新規2本)に対し合計64本の薬剤を注入した。



119 「風の松原」美林化ビジョンは?

本会前会長梅田市美さんが風の松原に広がる広葉樹の問題点などを考察した『風の松原』美林化ビジョンは?—市民の読書ノートからが平成20年8月から北羽新報に月3回のペースで連載されている。今年3月3日で23回目を迎えた。皆さんもご一読を。